



軽防協ニュース速報

2020年第2四半期(4月-6月)の伝染病発生状況

2020年9月配信

(International Collating Centre からの情報)

この記事は、2020年第2四半期(4月-6月)の各国の伝染病発生状況の要約したものである。ICC 暫定(リアルタイム)のレポートは <http://jdata.co.za/iccvviewer/> のページ内にある。このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1件の発生で複数症例を含むものがある。

繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1	EHV-3	EHV-4	レプトスピラ症	<i>S.zooepidemicus</i>
ベルギー	-	-	-	-	1	2
フランス	-	2	1	1	-	-
ドイツ	-	1	-	-	-	-
日本	-	3	-	-	-	-
オランダ	-	2	-	-	-	-
イギリス	1	3	-	-	-	-
アメリカ	-	6 (症例数)	3 (症例数)	-	-	-

馬伝染性子宮炎

イギリス

輸入された非サラブレッド種雄馬 1 例で不顕性感染が報告された。

馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による流産

フランス

2 件の発生で、それぞれ 1 例ずつが流産した。

ベルギー

1 例のワクチン接種馬が流産した。

日本

1 件の発生で 2 例が流産した。また、2 件の発生でそれぞれ 1 例が流産した。

オランダ

1 件の発生で 2 例の流産と 1 例の生後直死が報告された。また、1 件の発生で 1 例が流産した。

イギリス

3 件の発生が報告された。1 件の発生では呼吸器症状も複数の馬で認め、3 例で神経症状、1 例で生後直死が発生した。また、1 件の発生では 3 例の生後直死が発生した。また、1 件の発生では 1 例の生後直死が発生した。

アメリカ

ケンタッキー州において、6 例の流産および生後直死が発生した。

馬ヘルペスウイルス 3 型 (EHV-3) による瘡疹

フランス

スワブ検体の PCR 検査により 1 例で確認された。

アメリカ

ケンタッキー州において、3 例の感染が確認された。

馬ヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による流産

フランス

1 例が流産した。

レプトスピラ症による流産

ベルギー

1 例が流産した。

***S.zooepidemicus* による流産**

ベルギー

2 件の発生で、それぞれ 1 例ずつが流産した。

呼吸器疾患

発生国	EHV-1	EHV-4	EI	腺疫
ベルギー	2	1	-	1
エストニア	-	-	1	-
フランス	2	8	4	7
ドイツ	-	-	2	-
アイルランド	8	4	-	-
日本	1	-	-	-
オランダ	1	5	4	16
スイス	-	1	-	4
イギリス	2	5	3	-
アメリカ	1	-	風土病	38

EHV-1/-4 による呼吸器感染症

国際的に EHV は多くの国で風土病として存在しており、発生数は過小報告であると考えられる。各国の発生報告は研究施設での検査結果に基づくものであり、故に報告数はその国における発生頻度と相関していない可能性がかなり高い。

馬インフルエンザ

エストニア

1 件の発生で、2 例のワクチン接種馬が陽性診断された。

フランス

3 件の発生でそれぞれ 1 例ずつが発症した。また、1 件の発生で 1 例の発症と 3 例の有症状馬が確認された。

ドイツ

1 件の発生で 1 例のワクチン接種馬が発症した。また、1 件の発生で 2 例が発症し、1 例はワクチン接種馬、もう 1 例はワクチン未接種馬であった。

オランダ

1 件の発生で 1 例の新入厩ワクチン未接種馬が発症し、29 頭のワクチン接種馬が感染馬との接触を疑われている。また、1 件の発生では 1 例のワクチン未接種馬が発症し、3 頭のワクチン接種馬が感染馬との接触を疑われている。また、1 件の発生では 1 例の最近輸入されたワクチン未接種馬が発症した。別の 1 件では 1 例のワクチン未接種馬が発症した。

イギリス

1 件の発生でワクチンの補強接種時期を過ぎていた 2 例の馬が発症した。また、1 件の発生では 1 例のワクチン接種馬と、1 例のワクチン未接種馬が発症した。前者のワクチン接種馬は、年に 1 度の補強接種期限が迫っている馬であった。また、周囲には 13 頭の有症状馬がおり、ワクチン未接種馬のほうがより重度の症状を呈した。同施設では欧州より 2 頭の馬が新入厩していた。別の 1 件の発生では、最近新入厩した 1 例のワクチン未接種馬が発症した。

アメリカ

馬インフルエンザはアメリカでは風土病であり、少なくとも 5 つの州で報告されている。

腺疫

国際的に腺疫は多くの国で風土病である。

消化器疾患

発生国	ロタウイルス
フランス	14
アメリカ	78 (症例数)

ロタウイルス性腸炎

フランス

9 件の発生でそれぞれ 1 例ずつが発症した。また、4 件の発生でそれぞれ 2 例ずつが発症した。また、1 件の発生で 5 例が発症した。

アメリカ

78 例の感染が確認され、大部分はケンタッキー州であった。発症例の一部である 67 例のうち、31 例は G3 遺伝子型、21 例は G14 遺伝子型、15 例はその両遺伝子型陽性であった。

神経疾患

発生国	EEE	EEV	EHV-1 神経型	WNV
カナダ	-	-	3	-
南アフリカ	-	71	-	-
スイス	-	-	1	-
イギリス	-	-	1	-
アメリカ	2	-	11	2

東部馬脳炎 (Eastern Equine Encephalitis : EEE)

アメリカ

2 件の単独発症例が報告された。

馬脳症 (Equine Encephalosis Virus : EEV)

南アフリカ

南アフリカにある 9 つの州のうち 7 つの州で発生が報告された。

EHV-1 による神経疾患

カナダ

1 例の発生では 3 例が発症し、うち 2 例が研究施設にて陽性診断された。また、1 件の発生では 5 例が発症し、うち 3 例が安楽死処置された。この 2 件目の発生は 1 件目の発生と疫学的な関連がある。3 件目は単独発生であり、1 例が発症した。

スイス

1 例が発症した。

イギリス

1 例が発症し、安楽死処置された。

アメリカ

全てが単独発症例であり、うち 4 例が安楽死処置された。

ウエストナイルウイルス感染症 (WNV)

アメリカ

2 件の単独発症例が報告され、うち 1 例は安楽死処置された。

その他の疾患

発生国	AHS	EIA	ヘンドラウイルス 感染症	ピロプラズマ	水疱性口内炎
オーストラリア	-	-	1	-	-
カナダ	-	1	-	-	-
エスワティニ	1	-	-	-	-
フランス	-	-	-	-	-
ドイツ	-	1	-	-	-
ハンガリー	-	1	-	-	-
ニュージーランド	-	-	-	1	-
南アフリカ	Yes	-	-	42	-
タイ	14	-	-	-	-
アメリカ	-	4	-	-	107

アフリカ馬疫 (AHS)

エスワティニ

1 例が発症した。

南アフリカ

AHS は、西ケープ州の AHS 管理地域を除いて風土病である。感染地域における当四半期での AHS の発症は想定されるレベルであり、第 1 四半期に比べ減少した。全 9 州で発症が認められ、最多の陽性数はハウテン州であった。西ケープ州の AHS 感染地域で発生した 1 件は、AHS 保護地域の境界からは約 220km 離れており、AHS フリーゾーンの境界からは約 420km 離れている。

タイ

11 の州で複数の発症が確認された。

馬伝染性貧血 (EIA)

カナダ

無症状の 1 例が確認された。

ドイツ

1 例が発症し、安楽死処置された。

ハンガリー

無症状の 1 例が確認された。

アメリカ

2 件の発生で 2 例ずつが発症し、別の 2 件の発生で 1 例ずつが発症した。

ヘンドラウイルス感染症

オーストラリア

1 例が発症し、安楽死処置された。

ピロプラズマ症

ニュージーランド

以前に輸入された無症状の 1 例で陽性が確認された。

南アフリカ

ピロプラズマは南アフリカの風土病である。散発的に国中で報告されている。

水疱性口内炎

アメリカ

カンザス、ネブラスカ、アリゾナ、ニューメキシコ、テキサス州で発症が確認された。